

公益財団法人 日本バレーボール協会

第6期・2015年度 事業報告書

(2015年4月1日～2016年3月31日)

1. 事業の概況

(1) 理事改選に伴う新代表理事会長の就任

本年度役員改選により木村憲治（前Vリーグ機構会長）を代表理事・会長に迎え、林孝彦事務局長、井原実業務推進室長、下山隆志国内事業本部長兼国際事業本部長、宮島淑行 M&M 事業本部長、桐原勇人ビーチバレーボール事業本部長を業務執行理事とする理事19名の体制となりました。

(2) 喫緊の課題への取り組み

2050年構想及び中期計画の作成、財務体質改善、風土改革（ファン目線重視の徹底）に着手しました。

(3) 主な日本代表の戦績

	種別	大会名	開催期間	開催国	成績(参加)
男子	シニア	ワールドリーグ・2nd グループ	5/29～7/5	日本・韓国・フランス・チェコ	2位(4)
		第18回アジア男子選手権	7/31～8/8	イラン	優勝(16)
		ワールドカップ2015	9/8～9/23	日本	6位(12)
	ユニバ	第28回ユニバーシアード競技	7/2～7/12	韓国	6位(21)
	U-23	第1回アジアU-23男子選手権	5/12～5/20	ミャンマー	6位(16)
	ユース(U-19)	第14回世界ユース男子選手権	8/14～8/18	アルゼンチン	15位(20)
女子	シニア	第18回アジア女子選手権	5/20～5/28	中国	6位(16)
		モントルーバレーマスターズ	5/26～5/31	スイス	2位(8)
		ワールドグランプリ・グループ1	7/3～7/26	タイ、日本、中国、アメリカ	6位(12)
		ワールドカップ2015	8/22～9/6	日本	5位(12)
	ユニバ	第28回ユニバーシアード競技	7/4～7/11	韓国	3位(16)
	U-23	第1回アジアU-23女子選手権	5/1～5/9	フィリピン	4位(12)
		第2回世界U-23女子選手権	8/12～8/19	トルコ	4位(12)
	ジュニア(U-20)	第18回世界ジュニア女子選手権	9/11～9/19	プエルトリコ	14位(16)
	ユース(U-18)	第14回世界ユース女子選手権	8/7～8/16	ペルー	9位(20)
男子	ビーチバレーボールワールドツアー		7/21～	日本	長谷川/白鳥・西村/上場 25位(32)
女子	資生堂グランドスラム		7/26	西堀/溝江 9位 長谷川/永田・草野/田中 25位(32)	

(4) コンプライアンス委員会の設置と規程の改定

本会では、コンプライアンスの推進を事業運営上の最重要課題の1つに掲げて従来から取り組んできました。しかし、コンプライアンスの体制面からは、不十分な面も多くあったため、本会理事会にて倫理規程の内容の一部見直しと体制強化を盛り込んだコンプライアンス規程を新たに制定し、これを推進する組織としてコンプライアンス委員会を立ち上げました。

(5) 国内における国際大会の開催

ワールドカップ、ワールドリーグ、ワールドグランプリ大会を開催しました。
ビーチバレーボールでは 2009 年以來の国際大会を開催しました。

(6) 2020 東京オリンピック

2020 東京大会準備室の設置及び準備会議を開催しました。

(7) 体罰・暴力への取組み

体罰・暴力の窓口相談件数が、1 年間で 48 件あり、適宜対応しました。

(8) 決算について

本年度は約 97 百万円の赤字予算を計上する厳しいスタートとなりました。ビーチバレーボールのグランドスラムの赤字など赤字拡大という懸念もあったなか、経費削減努力や、観客数の増加などもあり最終損失は 95 百万円とほぼ予算どおりの結果となりました。

(略称の解説)

	略称	正式名
(1)	JOC	公益財団法人日本オリンピック委員会
(2)	FIVB	国際バレーボール連盟
(3)	AVC	アジアバレーボール連盟
(4)	NTC	味の素ナショナルトレーニングセンター
(5)	JADA	公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構
(6)	SFTC	スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局
(7)	V リーグ機構	一般社団法人日本バレーボールリーグ機構
(8)	JVA	公益財団法人日本バレーボール協会

2. 事業内容

(1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

① 日本代表チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行いました。

1) 男子・女子シニア日本代表チーム強化合宿

本年度、男子はワールドリーグファイナル進出を果たせず、予選リーグ第 2 位であったが、アジア選手権では 3 大会ぶり 8 度目の優勝を獲得した。女子はワールドカップで 2 位までに入り 2016 リオデジャネイロ五輪出場権獲得を目標としたが最終結果は 5 位 (12 チーム中)、オリンピック出場権は 2016 年 5 月に行われる世界最終予選兼アジア大陸予選大会で争うことになった。FIVB ワールドグランプリ 2015 は優勝を目標としていたが、6 位 (12 チーム中) という結果になりました。

■男子：国内合宿・味の素ナショナルトレーニングセンター (以下、NTC という。) を主会場として、120 日間実施。

海外合宿・ポーランドほかで 30 日間実施。

■女子：国内合宿・NTC を中心に 60～70 日間実施。

海外合宿・ブラジルで 20 日間実施。

注) シニアチームとはトップレベル選手で構成された日本代表チーム。

2) 男子・女子 U-23 日本代表チーム強化合宿

男子は第 1 回アジア U-23 選手権大会において第 6 位 (16 チーム中) となり、第 2 回世界 U-23 選手権大会の出場権を逃した。女子は第 1 回アジア U-23 女子選手権大会において 4 位 (12 チーム中) となり第 2 回世界 U-23 選手権大会の出場権を逃したが、ワイルドカードでの出場権が与えられ、第 2 回世界 U-23 選手権大会では 4 位 (12 チーム中) となりました。

■男子：国内合宿・NTC を中心に 30 日間実施

■女子：国内合宿・NTC を中心に 40 日間実施

3) 男子・女子ユニバーシアード日本代表チーム強化合宿

本年度は、第 28 回ユニバーシアード競技大会 (2015/光州) (2 年に 1 回開催) で男子は第 6 位 (21 チーム中) となり目的を果たせなかった。女子は 3 位決定戦において強豪ブラジルを下して銅メダル (16 チーム中) を獲得し、競技大会における目標を達成しました。

■男子：国内合宿・NTC ほか 35 日間実施。

■女子：国内合宿・NTC ほかで 30 日間実施。

注) ユニバーシアードチームとは、主に大学生を中心に構成される日本代表チーム。

4) 男子・女子 Team CORE 日本代表チーム強化合宿

Team CORE とは、2020 年東京オリンピックに向けて集中的に強化していく選手、男子 10 名、女子 10 名で構成されており、各選手の年齢に合うアンダーエイジカテゴリーの大会などに出場し、国際経験を積み、本大会につながる中期的強化活動を実施して行きました。

■男子：国内合宿・NTC ほかで 30 日間実施。

■女子：国内合宿・NTC を中心に 25 日間実施。

5) 女子ジュニア日本代表チーム強化合宿

本年度は、第 18 回世界ジュニア女子選手権大会 (U-20) でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を実施したが、最終結果は 4 位 (16 チーム中) となりました。

※国内合宿・NTC を中心に 20 日間実施

注) ジュニアチームとは、1996 年 1 月 1 日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム。

6) 男子・女子ユース日本代表チーム強化合宿

本年度は、第 14 回世界ユース選手権大会 (U-18) でのメダル獲得を最大の目標に強化合宿を行う。男子は 15 位 (20 チーム中) 女子は 9 位 (20 チーム中) という結果になりました。

■男子：国内合宿・NTC ほかで 25 日間程度実施。

■女子：国内合宿・NTC を中心に 25 日間実施。

注) ユースチームとは男子が 1997 年 1 月 1 日以降に、女子が 1998 年 1 月 1 日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム。

②将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) 全国小学生・中学生・高校生身長選手発掘事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施しました。

③競技力向上にかかるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

- 1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方 of 立案と提言を行いました。
- 2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行いました。
- 3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣しました。
- 4) 日本代表チームにドクターを派遣するとともに薬剤の手配を行いました。
- 5) アンチ・ドーピングの啓発と普及及び研修を行いました。
- 6) 日本開催の国際大会及びビーチバレーボールを含む主要国内大会で日本代表選手を中心にドーピング検査を実施しました。

④日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術ほか総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣しました。

1) シニア日本代表チーム

- 男子：ワールドリーグ・2nd グループ（開催国：日本・韓国・フランス・チェコ、開催期間：5/29～7/5 及び決勝 Final 4 7/10-11、Final 6 7/15-19）
第 18 回アジア男子選手権大会（イラン、7/31～8/8）
ワールドカップ（日本、9/8～9/23）

- 女子：第 18 回アジア女子選手権大会（中国、5/20～5/28）
モントルーバレーマスターズ（スイス、5/26～5/31）
ワールドグランプリ（タイ、日本、中国、アメリカ、7/3～7/26）
ワールドカップ（日本、8/22～9/6）

2) ユニバーシアード日本代表チーム

- 男子：第 28 回ユニバーシアード競技大会（韓国、7/2～7/12）
- 女子：第 28 回ユニバーシアード競技大会（韓国、7/4～7/11）

3) U-23 日本代表チーム

- 男子：第 1 回アジア U-23 男子選手権大会（ミャンマー、5/12～5/20）
- 女子：第 1 回アジア U-23 女子選手権大会（フィリピン、5/1～5/9）
第 2 回世界 U-23 女子選手権大会（トルコ、8/12～8/19）

4) ジュニア日本代表チーム

- 女子：第 18 回世界ジュニア女子選手権大会（U-20）（プエルトリコ、9/11～9/19）

5) ユース日本代表チーム

- 男子：第 14 回世界ユース男子選手権大会（U-19）（アルゼンチン、8/14～8/18）
- 女子：第 14 回世界ユース女子選手権大会（U-18）（ペルー、8/7～8/16）

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) FIVB ワールドリーグ 2015

FIVB は男子バレーボールの世界一を決める本大会を毎年開催している。本年の日本開催は、インターコンチネンタル・ラウンド（グループ 2）全 6 週のうちホーム 3 週を FIVB と協力して開催しました。

- ◆インターコンチネンタル・ラウンド（第1週）
 - 開催期間： 5月30日（土）、31日（日）
 - 参加国： 日本、チェコ
 - 開催都市： 岡山県（桃太郎アリーナ）
 - 観客数： 5月30日（土） 2,760名（日本3-1チェコ）
5月31日（日） 2,910名（日本2-3チェコ）
- ◆インターコンチネンタル・ラウンド（第2週）
 - 開催期間： 6月6日（土）、7日（日）
 - 参加国： 日本、フランス
 - 開催都市： 京都府（島津アリーナ京都）
 - 観客数： 6月6日（土） 2,880名（日本0-3フランス）
6月7日（日） 3,440名（日本0-3フランス）
- ◆インターコンチネンタル・ラウンド（第4週）
 - 開催期間： 6月20日（土）、21日（日）
 - 参加国： 日本、韓国
 - 開催都市： 大阪府（大阪中央体育館）
 - 観客数： 6月20日（土） 1,700名（日本3-0韓国）
6月21日（日） 2,530名（日本3-0韓国）
- ◆インターコンチネンタル・ラウンド（グループ2/Pool D/4チーム）順位
 - 1位：フランス 2位：日本 3位：チェコ 4位：韓国
 - ※日本の総合順位（グループ2）は、5位タイ（12チーム中）

2) FIVB ワールドグランプリ 2015

FIVB は女子バレーボールの世界一を決める本大会を毎年開催している。本年の日本開催は、予選ラウンドの第2週（プールE）をFIVBと協力して開催しました。決勝ラウンドはアメリカで開催。

- 開催期間： 7月10日（金）～7月12日（日）
- 開催都市： 埼玉県（さいたま市記念総合体育館）
- 試合数： 計6試合（1日2試合×3日）
- 参加国： 日本、中国、イタリア、ドミニカ共和国
- 観客数： 7月10日（金） 4,580名（日本2-3イタリア）
7月11日（土） 4,780名（日本3-0ドミニカ共和国）
7月12日（日） 4,940名（日本1-3中国）
- 最終順位： ※グループ1/Pool E/4チーム
1位：中国 2位：イタリア
3位：日本 4位：ドミニカ共和国
※日本の総合順位（グループ1）は、6位（12チーム中）

3) FIVB ワールドカップバレーボール 2015 男女大会

国際バレーボール連盟が4年に1回開催するFIVBワールドカップバレーボール2015男女大会（以下「ワールドカップ」という。）をFIVBと協力して日本で開催しました。

ワールドカップは、バレーボール界3大大会の一つで、その翌年開催となるオリンピックの出場権が付与される最初の大会であります。

➤ 開催期間：8月22日（土）～9月23日（水・祝）

【女子大会（12チーム）】

- 開催国 : 日本
- 2014 世界選手権優勝国 : アメリカ
- 5大陸代表（各大陸代表2チーム）
 - ・アジア大陸（AVC） : 中国、韓国
 - ・アフリカ大陸（CAVB） : ケニア、アルジェリア
 - ・ヨーロッパ大陸（CEV） : ロシア、セルビア
 - ・南米大陸（CSV） : アルゼンチン、ペルー
 - ・北中米大陸（Norceca） : ドミニカ共和国、キューバ

【男子大会（12チーム）】

- 開催国 : 日本
- 2014 世界選手権優勝国 : ポーランド
- 5大陸代表（各大陸代表2チーム）
 - ・アジア大陸（AVC） : イラン、オーストラリア
 - ・アフリカ大陸（CAVB） : チュニジア、エジプト
 - ・ヨーロッパ大陸（CEV） : ロシア、イタリア
 - ・南米大陸（CSV） : ベネズエラ、アルゼンチン
 - ・北中米大陸（Norceca） : カナダ、アメリカ

➤ 開催都市：

【女子大会】

試合日	A サイト	B サイト
8月22日(土)	国立代々木第一体育館 (東京)	松本市総合体育館 (松本)
8月23日(日)		
8月24日(月)		
8月26日(水)		
8月27日(木)		
8月30日(日)	仙台市体育館 (仙台)	桃太郎アリーナ (岡山)
8月31日(月)		
9月1日(火)		
9月4日(金)	日本ガイシホール (名古屋)	パークアリーナ小牧 (小牧)
9月5日(土)		
9月6日(日)		

【男子大会】

試合日	A サイト	B サイト
9月8日(火)	広島グリーンアリーナ (広島)	浜松アリーナ (浜松)
9月9日(水)		
9月10日(木)		
9月12日(土)		
9月13日(日)		
9月16日(水)	大阪市中央体育館 (大阪)	富山市総合体育館 (富山)
9月17日(木)		
9月18日(金)		

9月21日(月・祝)	国立代々木第一体育館 (東京 A)	東京体育館 (東京 B)
9月22日(火・祝)		
9月23日(水・祝)		

- ▶ 試合数：全132試合（女子：1日3試合×11日）、（男子：1日3試合×11日）
- ▶ 観客数： ※日本戦

【女子大会】

試合日	対戦結果	観客数(視聴率)
8月22日(土)	日本 3-0 アルゼンチン	12,000名(7.8%)
8月23日(日)	日本 2-3 ロシア	12,000名(8.9%)
8月24日(月)	日本 3-0 キューバ	12,000名(9.3%)
8月26日(水)	日本 3-0 ケニア	12,000名(7.6%)
8月27日(木)	日本 3-2 ドミニカ共和国	12,000名(13.2%)
8月30日(日)	日本 3-0 ペルー	6,381名(10.7%)
8月31日(月)	日本 3-0 韓国	6,742名(15.1%)
9月1日(火)	日本 2-3 セルビア	6,767名(16.4%)
9月4日(金)	日本 3-0 アルジェリア	7,000名(10.2%)
9月5日(土)	日本 1-3 アメリカ	7,000名(14.6%)
9月6日(日)	日本 1-3 中国	7,000名(10.9%)

【男子大会】

試合日	対戦結果	観客数(視聴率)
9月8日(火)	日本 3-2 エジプト	3,030名(10.1%)
9月9日(水)	日本 1-3 アメリカ	3,930名(11.3%)
9月10日(木)	日本 3-1 オーストラリア	4,220名(9.9%)
9月12日(土)	日本 3-0 カナダ	6,040名(10.3%)
9月13日(日)	日本 0-3 イタリア	6,040名(10.3%)
9月16日(水)	日本 3-0 チュニジア	6,800名(8.9%)
9月17日(木)	日本 3-0 ベネズエラ	6,900名(11.6%)
9月18日(金)	日本 2-3 イラン	6,950名(10.4%)
9月21日(月・祝)	日本 0-3 アルゼンチン	12,000名(3.7%)
9月22日(火・祝)	日本 1-3 ポーランド	12,000名(5.6%)
9月23日(水・祝)	日本 2-3 ロシア	12,000名(5.7%)

- ▶ 最終順位：

【女子大会】

1位：中国	2位：セルビア	3位：アメリカ
4位：ロシア	5位：日本	6位：韓国
7位：ドミニカ共和国	8位：アルゼンチン	9位：キューバ
10位：ケニア	11位：ペルー	12位：アルジェリア

【男子大会】

1位：アメリカ	2位：イタリア	3位：ポーランド
4位：ロシア	5位：アルゼンチン	6位：日本
7位：カナダ	8位：イラン	9位：オーストラリア
10位：エジプト	11位：ベネズエラ	12位：チュニジア

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及びアジアバレーボール連盟(AVC)役員等派遣事業

世界のバレーボール統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として、本会の代表を派遣して世界のバレーボール界発展に尽力し、国際的な貢献をいたしておりますが、本年は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、各国で開催される世界大会、アジア大会ほかに競技役員、審判員を派遣いたしました。

2) 国際貢献活動

バレーボールバンク事業 ※ (12) 社会貢献事業にも同一活動の内容を記載

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①講習会（バレーボール教室）開催事業

1) バレーボールをやってみよう～V リーグ選手と一緒にバレーボール教室

(参加者総数 2,291 名：男子児童数 435 名、女子児童数 1,018 名、保護者数 838 名)
本会では、小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、V リーグ選手が指導するバレーボール教室を毎年各地で開催していますが、本年度は以下の 10 都道県で実施しました。

北海道、山形、石川、長野、千葉、東京、三重、岐阜、奈良、山口

2) バレーボールを上手になろう～小中一貫バレーボール教室

(参加者総数 630 名：選手数 520 名、指導者数 110 名)

一貫指導の充実とバレーボール人口増加を目的として、小中合同のバレーボール教室を開催し本年度は、以下の 3 県で実施しました。

秋田県能代市、新潟県佐渡市、鹿児島県知名町

3) 幼稚園、保育園等でのソフトバレーボール実践事業

(実施総数 7 カ所/参加園児総数 423 名：幼稚園/3 カ所 64 名・保育園 4 カ所/359 名)
幼児期にソフトバレーボールを通じて、スポーツの楽しさを伝える環境作りを行いソフトバレーボール指導者の育成を目的としたモニター事業を展開しました。本年度はブロックごとの開催とし、以下の 7 道府県で実施しました。

北海道、秋田、栃木、福井、京都、徳島、長崎

②指導者養成事業

小学生指導者ほか各種別の指導者を対象に以下の養成講習会等を開催しました。

1) 全国小学生バレーボール指導者講習会

(受講者総数 2,310 名：一次 894 名、二次 914 名、三次 440 名)

本会では、小学生の指導者を対象として第一次、第二次および第三次講習会を毎年各地で開催していますが、本年度は以下の 15 府県で実施しました。

秋田、岩手、群馬、千葉、神奈川、京都、滋賀、大阪、岡山、鳥取、高知、福岡、熊本、鹿児島

2) 全国中学生バレーボール指導者研修会 (参加者数 575 名)

本会では、中学生の指導者を対象として全国中学生指導者講習会を毎年各地で開催していますが、本年度は以下の 12 都道府県で実施しました。

北海道、秋田、山形、群馬、東京、福井、三重、京都、鳥取、香川、鹿児島、沖縄

3) 都道府県別バレーボール指導者研修会 (参加者数 1,114 名)

各都道府県の指導者の資質向上を目的に、全国 22 都府県で開催しました。

青森、岩手、山形、茨城、群馬、栃木、埼玉、東京、福井、静岡、岐阜、滋賀、京都、奈良、大阪、兵庫、鳥取、広島、佐賀、熊本、鹿児島、沖縄

- 4) ソフトバレーボールリーダー・マスターリーダー養成講習会（参加者数 720 名）
ソフトバレーボールの指導、審判、競技運営ができる指導者の養成を目的に、東京ほか 17 都道県で開催しました。
北海道、福島、茨城、群馬、東京、山梨、愛知、新潟、富山、岡山、広島、山口、香川、高知、福岡、佐賀、宮崎
- 5) 日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、指導員のバレーボール専門科目資格取得講習会（参加者総数 222 名：上級コーチ 18 名、コーチ 40 名、大学部員対象指導員 142 名、クラブ連対象指導員 22 名）日本体育協会からの受託事業として、上級コーチ、コーチ、指導員の資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を、東京・大阪で開催しました。
- 6) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会（参加者数 73 名）
本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会およびスキル向上のための研修会（公認講師研修会・スポーツ指導者研修会）を東京で開催しました。
- 7) ゴールドプラン関連事業
近年の競技人口の減少は憂慮すべき事態であり、バレーボールの将来を考えると緊急かつ最大の課題となっています。特に小学生、中学生が減少しており、その原因としては、少子化、スポーツのニーズの多様化、指導者不足等々、様々なことが考えられます。この課題には横断的・総合的に対処する必要があり、本会では“ゴールドプラン”と称し、その中核となるプロジェクトチームを設立してこの課題に対して組織全体で取り組みました。

③審判員等養成事業

競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員及び技術統計判定員を養成するため、以下の講習会等を開催しました。

講習会名等	実施期間	会場	参加者数
A級審判員資格取得審査講習会	27.08.10～14	近畿大学	79名
ビーチバレーボール特別 A 級審判員資格取得審査講習会	27.08.10～13	近畿大学・大阪府立総合教育センター附属高校	17名
全国ビーチバレーボール審判講習会	27.04.11～12	神奈川県	57名
全国ラインジャッジ・クリニック	27.04.30～05.02	大阪府	54名
全国 6 人制審判講習会	28.03.20	東京都	348名
全国 9 人制審判講習会	28.03.27	大阪府	192名
ブロック A 級審判員講習会	27.04～07	全国各ブロック	436名
I スクール	27.08.22～08.28	大阪府・静岡県	6名
ビーチ I スクール	☆開催なし		
V スクール	27.04.18～27.11.07	全国各ブロック	51名
技術統計上級判定員認定講習会	27.04.19	東京都	6名
A 級審判員研修会（6 人制）	27.11.30～12.02 27.12.01～03	愛知県 東京都	39名 73名
A 級審判員研修会（9 人制）	27.11.19～21 27.11.27～29	大阪府 京都府	31名 20名

④指導者等資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

本会では、バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することで、バレーボールの本質的な素晴らしさを伝えることができる指導者資格として、以下の資格の認定、登録を行いました。

小学生バレーボール指導者資格 ソフトバレーボールリーダー
ソフトバレーボール・マスターリーダー 公認講師

2) 審判員資格認定事業

本会では、競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格として、以下の資格の認定、登録を行いました。

A 級審判員 A 級候補審判員 B 級審判員 C 級審判員
レフェリーインストラクター

3) 技術統計判定員資格認定

本会では、競技における技術統計記録法の適正な運用と、各種プレーの評価と判定の統一を行う技術統計判定員資格として以下の資格の認定、登録を行いました。

技術統計判定指導員 技術統計上級判定員 技術統計判定員

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯皇后杯全日本選手権大会開催事業（男女大会）

天皇杯・皇后杯は、昭和 25 年(1950 年)に全日本 9 人制選手権大会に下賜されて以来、平成 26 年までの 64 年間、日本国内最強のチームに授与されてきました。平成 19 年度からは中学生以上のチームならどのチームでも参加できる壮大な全日本選手権大会に生まれ変わりましたが、本年度はその 9 回目として、以下の日程で実施しました。

都道府県ラウンド：平成 27 年 4 月～8 月 各都道府県内体育館
(男子 466・女子 485 チーム参加)

ブロックラウンド：平成 27 年 9 月～10 月 各ブロック内体育館
(男子 107・女子 106 チーム参加)

ファイナルラウンド：平成 27 年 12/18～27 12/26～27 東京体育館
(男女 16 チーム参加)

優勝チーム：男子：豊田合成トレフェルサ（愛知県）
女子：久光製薬スプリングス（佐賀県）

②全日本小学生大会（男女大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の養成に努めること、低学年層から正しいバレーボールの基本技術とチームプレーを体得し楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、以下の日程で実施しました。また、今年度から男女混合の部を新設し、より多くの小学生が参加できるようにしました。

都道府県大会 ：平成 27 年 4 月～7 月 各都道府県内体育館
(男子 937・女子 4291・混合 284 チーム・合計 5512 チーム参加)

全国大会 ：平成 27 年 8 月 13 日～16 日 東京体育館ほか
(都道府県代表 男女 48・混合 42 チーム参加)

なお、例年同様、大会と並行して各選手村（宿泊施設）で教育活動を行いました。

優勝チーム：男子：中之ロジュニア（新潟県）

女子：大井クッキーズ（埼玉県）

混合：陵ヶ岡（京都府）

③全国都道府県対抗中学大会（男女大会）

将来のオリンピック選手発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深めスポーツマンシップの高揚に努めると共に、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、本年度は以下の日程で実施しました。

◆開催期間：平成 27 年 12 月 25 日～28 日

会 場：大阪市中央体育館他（96 チーム参加）

優勝チーム：男子：滋賀県 女子：長野県

④全日本高等学校選手権大会（男女大会）

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として、本年度は以下の日程で実施しました。

◆開催期間：平成 28 年 1 月 5 日～7 日・9 日～10 日

会 場：東京体育館（104 チーム参加）

優勝チーム：男子：東福岡高等学校（福岡県）

女子：下北沢成徳高等学校（東京都）

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（男女大会）

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、本年度は以下の日程で男子・女子、大学日本一を決める本大会を実施しました。

◆開催期間：平成 27 年 11 月 30 日～12 月 6 日（男子大会）

会 場：大田区総合体育館他（120 チーム参加）

優勝チーム：男子：中央大学（東京都）

◆開催期間：平成 27 年 11 月 30 日～12 月 5 日（女子大会）

会 場：稲永スポーツセンター他（64 チーム参加）

優勝チーム：女子：東海大学（神奈川県）

⑥前記各競技大会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種全国大会を実施しました。

大会名等	実施期間	会場	チーム数	優勝チーム
全日本⑨実業団女子選手権大会	27.07.09～12	鳥取県鳥取市	21	パナソニック ESブルーベルズ（大阪）
全国ママさん大会（⑨）	27.08.7～10	宮城県利府町 他	48	F加島（大阪）、ASH（東京） 鎌田（福島）、鼎クラブ（長野）
全日本⑨実業団男子選手権大会	27.07.24～27	石川県金沢市	60	中部徳洲会病院（沖縄）
全日本⑨クラブカップ女子選手権大会	27.08.06～09	北海道札幌市	48	佐伯長陽会 I・O（大分）
全日本⑨クラブカップ男子選手権大会	27.08.14～16	香川県高松市	64	群雄会（静岡）
全国⑨社会人東ブロック男女優勝大会	27.11.06～09	神奈川県 平塚市	36 24	男子：印刷局小田原（神奈川） 女子：全目黒（東京）
全国⑨社会人西ブロック男女優勝大会	27.10.02～05	京都府京都市	37 24	男子：目達原自衛隊（佐賀） 女子：はまあ～ず（大阪）
全日本⑨総合男子選手権大会	27.11.20～22	大阪府大阪市	60	中部徳洲会病院（沖縄）
全日本⑨総合女子選手権大会	27.11.28～30	京都府京都市	53	富士通テン（兵庫）
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	27.05.01～06	大阪府大阪市	16 16	男子：サントリーサンバーズ （大阪） 女子：JT マーヴェラス（大阪）
全日本クラブカップ女子選手権大会	27.07.30～08.02	岩手県一関市	48	クラブ愛媛（愛媛）
全日本クラブカップ男子選手権大会	27.08.14～16	大阪府大阪市	64	和歌山クラブ（和歌山）

全国ヤングクラブ優勝大会	27.09.21～22	大阪府門真市 大阪市	108	男子：パンサーズジュニア（大阪） もりきた（愛知） 女子：シーガルスジュニア（岡山） GTOB（福井）
全国ソフトバレー・ファミリーフェスティバル ※4人制	27.07.31～08.02	石川県白山市	32	スタークラブ（石川）、LEGO（京都）、スクエアー（石川）、こまちちゃんZ（長野）、こんなもんや（香川）、はせくらぶA（長野）、新道プラネッツ（新潟）、Oku-chi381（滋賀）
全国ソフトバレー・シルバーフェスティバル ※4人制	27.10.10～12	大阪府枚方市	54	四日市クラブ（三重）、SAIWAI（千葉）、西条クラブ AKO（愛媛）、カメラート（京都）、おおき（福岡）、MSVC（広島）
全国ヴィンテージ8'S交流大会 ※8人制	27.10.23～25	沖縄県那覇市	37 16	50歳以上：湘南ヴィンテージクラブ（神奈川）、f（フォルテ）（熊本）、横浜国大クラブ（神奈川） 60歳以上：富士山倶楽部（静岡）、川崎ヴィンテージ（神奈川）

⑦本会および公益財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施しました。

1) 国民体育大会（第70回）

バレーボール競技【正式競技】

日程・平成27年9月27日～9月30日

開催地・和歌山県橋本市・御坊市

優勝チーム：成年男子：静岡県

成年女子：岡山県

少年男子：福岡県

少年女子：長崎県

2) 日本スポーツマスターズ（第15回）

日程・平成27年9月19日～22日

開催地・石川県金沢市

優勝チーム：男子：東京実連（東京都）

女子：岡崎球友会（愛知県）

⑧本会および公益財団法人全国高等学校体育連盟との共催により、以下の大会を実施しました。

1) 全国高等学校総合体育大会男子競技

日程・平成27年8月2日～8月6日

開催地・大阪府大阪市

優勝チーム：大阪府立大塚高等学校（大阪府）

2) 全国高等学校総合体育大会女子競技

日程・平成27年7月28～8月1日

開催地・大阪府大阪市

優勝チーム：九州文化学園高等学校（長崎県）

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

日程・平成27年8月5日～9日

開催地・神奈川県平塚市

優勝チーム：男子：横浜修悠館高等学校（神奈川県）

女子：佐世保中央高等学校（長崎県）

⑨本会および公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施しました。

全日本中学校選手権大会（男女大会）

日程・平成 27 年 8 月 21 日～24 日

開催地・北海道旭川市

優勝チーム：男子：白川市立光野中学校（石川県）

女子：長野市立裾花中学校（長野県）

(5) ビーチバレーボール事業

①競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

1) ビーチバレーボール日本代表選手強化合宿

男女共に、2016 年のリオデジャネイロオリンピック出場権の獲得を目指し、アジアコンチネンタルカップ第 2 フェーズの突破、また女子の西堀・溝江組についてはオリンピックランキングによる同オリンピックの出場権獲得も視野に入れて FIVB ワールドツアーを転戦しました。

韓国で行われたアジアコンチネンタルカップ第 2 フェーズ（東アジアゾーン）では日本・中国・韓国・台湾・香港・モンゴルが参加のなか、男子は決勝で中国を破りファイナル（第 4 フェーズ）に進出を決定、女子は決勝で中国に敗れ 2 位でセミファイナル（第 3 フェーズ）に出場しファイナルを目指すこととなりました。

また、3 月 25 日～28 日にオーストラリアで開催されたアジア選手権では、女子の石井・村上組が 3 位となりました。

◆男子：国内合宿・平塚ビーチパーク、川崎マリエンを中心に 60 日間実施。

海外合宿・アメリカなどで 40 日間実施。

◆女子：国内合宿・平塚ビーチパーク、川崎マリエンを中心に 60 日間実施。

海外合宿・アメリカで 40 日間実施。

2) ビーチバレーボールジュニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

男女共に、2016 年度に開催される世代別（U21、U19、U17）世界選手権に向け選手選考を行い、U21 日本代表は 3 月 1 日～3 日にタイで開催された U21 アジア選手権に出場しました。女子は準優勝、男子は 7 位入賞となり共に 5 月にスイスで開催される U21 世界選手権の本戦からの出場権を獲得しました。

女子は世界の同世代と比べても非常に高いスキルを持った選手、男子にはビーチバレーボール経験が浅いものの 190 cm でバレーボールスキルのある選手を選ぶことができました。共に将来シニアでも世界に通用するようフィジカル強化に取り組ませたいと考えます。

◆男子：国内合宿・川崎マリエンで 7 日間実施。

◆女子：国内合宿・川崎マリエンで 7 日間実施。

3) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

- ・ワールドツアー（世界各地で 4 月～11 月まで開催）10～14 大会に派遣
- ・アジアコンチネンタルカップ第 2 フェーズ（韓国、8/5～7）
- ・アジア選手権（オーストラリア、3/25～3/28）

4) ビーチバレーボールジュニア男女日本代表チーム

- ・ビーチバレーボール U21 アジア選手権大会（タイ、3/1～3/3）

②国際大会開催事業

7 月 21 日～26 日に神奈川県横浜市の臨港パークにて「FIVB ビーチバレーボールワールドツアー資生堂グランドスラム 2015 横浜大会」を開催しました。

ブラジル、アメリカ、ドイツ、カナダなど世界の強豪チームを集まり非常にハイレベル

な試合が繰り広げられました。日本チームも男女3チームが本選に参加し、女子の西堀・溝江組が9位となりました。

東京オリンピックの開催に向け、再び日本での国際大会開催は必須であるため、次回の開催に向け協賛社の獲得や大会のプロモーションなど鋭意準備を進めてまいります。

③講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定

1) ビーチバレーボール指導者講習会（参加者数40名）

ビーチバレーボール指導者を対象に、福井県、鹿児島県で開催しました。

・9月22日～23日福井県小浜市

・10月17日～18日鹿児島県曾於郡大崎町

④全国大会等国内競技会開催事業

1) JVAビーチバレーボールシリーズA

昨年度に引き続き国内での競技性の高い大会による競技力向上を目指し、JVAビーチバレーボールシリーズAを実施しました。さらに今年度はグランフロント大阪大会をシリーズAファイナルとして、上位チームが集まる大会として開催しました。

◆開催期間：平成27年6月19日～21日

会 場：志摩大会（三重県志摩市）

優勝チーム男子：清水・仲矢（24チーム・48名参加）

優勝チーム女子：田中・草野（19チーム・38名参加）

◆開催期間：平成27年6月26日～28日

会 場：南あわじ大会（兵庫県南あわじ市）

優勝チーム男子：村上・庄司（24チーム・48名参加）

優勝チーム女子：西堀・溝江（23チーム・46名参加）

◆開催期間：平成27年7月10日～12日

会 場：行橋大会（福岡県行橋市）

優勝チーム男子：村上・高橋（24チーム・48名参加）

優勝チーム女子：長谷川・永田（16チーム・32名参加）

◆開催期間：平成27年7月31日～8月2日

会 場：大洗大会（茨城県大洗町）

優勝チーム男子：上場・西村（24チーム・48名参加）

優勝チーム女子：草野・長谷川（20チーム・40名参加）

◆開催期間：平成27年8月7日～9日

会 場：若狭おばま大会（福井県小浜市）

優勝チーム男子：庄司・畑辺（23チーム・46名参加）

優勝チーム女子：長谷川・永田（19チーム・38名参加）

◆開催期間：平成27年10月3日～4日

会 場：グランフロント大阪大会（大阪府大阪市）

優勝チーム男子：畑辺・高橋（8チーム・16名参加）

優勝チーム女子：草野・長谷川（8チーム・16名参加）

2) ビーチバレージャパン・ビーチバレージャパンレディース

ビーチバレーボールの日本一を決める全日本選手権大会として、本年度は以下の日程で実施しました。

◆開催期間：平成27年8月14日～16日

会 場：神奈川県藤沢市鵠沼海岸
 優勝チーム男子：畑辺・高橋（推薦）（51 チーム・102 名参加）
 優勝チーム女子：石井・村上（推薦）（16 チーム・32 名参加）

◆開催期間：平成 27 年 8 月 20 日～23 日（女子大会）

会 場：大阪府泉南郡岬町淡輪
 優勝チーム：田中・草野（推薦）（32 チーム・64 名参加）

3) 国民体育大会ビーチバレーボール競技（イベント事業）

平成 29 年度の愛媛国体からの正式種目化に向け、和歌山国体に合わせイベント事業を開催しました。

◆開催期間：平成 27 年 8 月 29 日～30 日

会 場：和歌山県和歌山市片男波海岸
 優勝チーム男子：奥平・瀬田（愛知県）（12 チーム・24 名参加）
 優勝チーム女子：松山・松村（神奈川県）（12 チーム・24 名参加）

4) 前記各競技大会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を実施しました。

大会名等	実施期間	会場	チーム数	選手数	優勝チーム
全日本ビーチバレー 大学男女選手権大会	27.08.07～9	神奈川県	21	42	男子：国士舘
		川崎市	22	44	女子：産業能率
全日本ビーチバレージュニア 男子選手権大会	27.08.08～11	大阪府阪南市	52	104	瀧元・関東（兵庫）
全日本ビーチバレージュニア 女子選手権大会	27.08.06～9	愛媛県伊予市	46	92	出口・西（京都）
全国中学生ビーチバレー大会 ※4人制	27.08.16～17	神奈川県	24	96	荒天により決勝トーナメント 中止
		藤沢市	45	180	

(6) マーケティング事業

公益目的事業を安定的に推進すべく、バレーボールの社会的な価値や本会事業の推進に賛同いただいている協賛社や広告代理店とのパートナーシップの強化・更新及び新規協賛社の獲得に向け積極的に活動を行いました。

また、本会が所有する各種標章の無断及び不適切な使用がないよう適切な管理運営を実施するとともに、全日本選手の肖像権等の管理運営を行い、無体財産の価値向上に努めました。

(7) バレーボール用品・用具の公認及び公認物品販売事業

競技の公正、安心・安全など競技者が楽しくプレーできるようにボール、ネット等の用品・用具の検定及び認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へより良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者へ働きかけを行いました。

公認審判員・判定員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨し、また、JVA 関係者を対象に「JVA バッジ」の販売を引き続き行いました。

国際大会のバレーボール観戦者に対して、観戦を通して国民の一体感や個人のマナーなど、豊かな人間性を育むことを目的に、応援グッズほか本会公認物品の販売を行いました。

(8) 出版物等販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール 6 人制競技規則、同 9 人制競技規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則の出版販売を行いました。また、6 人制・9 人制については本年度よりケースブックとあわせて 1 冊にまとめ、内容の充実を図りました。また、購入者がより購入しやすい方法として、インターネットによる販売を行い、浸透・定着してきています。

(9) V リーグ開催及び開催支援事業

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構が主催する V リーグについて、東京における開催権を取得し、バレーボールの普及、振興に合わせ、本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源調達を図ることを目的として開催しました。

(10) 地域グループ育成強化事業

本会の加盟団体である都道府県バレーボール協会等に交付金を交付することで、加盟団体が行う公益目的事業の遂行や団体管理運営に必要な経済的支援を行いました。

(11) 東京 2020 大会準備室

2015 年 10 月 20 日開催の理事会承認により準備室を新設。

TOCOG（公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会）との連携、調整のもと、バレーボール競技、ビーチバレーボール競技に関する業務全般を担う。

①競技施設

1) バレーボール＝有明アリーナ（新規恒久施設・15,000 人収容）

- 2019 年 12 月竣工
- 後利用計画＝多目的活用を優先（東京都）
 - ・床素材をコンクリート床と決定
 - ・JVA は緩衝効果のある床材使用(スポーツ床)を提案
 - ・併せて函館アリーナやアオーレ長岡を例に多目的使用に見合う全方位的床材の使用と設営構造の改善を他のインドアスポーツ競技団体と連名で東京都準備局に提案～交渉中

2) ビーチバレーボール＝潮風公園（仮設・12,000 人収容）※大会後撤去

- 2019 年 7 月竣工（既に護岸工事開始）
- 公園内の植栽、樹木を移動させずセンターコート、諸施設を設営
- 練習コートを潮風公園南側（船の科学館側）に設営

3) シッティングバレーボール＝千葉・幕張メッセ（既設）

②テストイベント

1) バレーボール＝2020 年 2 月以降予定（TOCOG/FIVB と調整）

2) ビーチバレーボール 2019 年 8 月以降予定（TOCOG/FIVB と調整）

3) パラバレーボール（未確認）

③事前キャンプ

1) 都道府県協会宛に TOCOG の「事前キャンプ候補地ガイド応募要項」に沿って FIVB

施設基準なる「IF 技術要件確認書」を配布。該当自治体との連携を依頼。

- 2) 2016年2月末日現在で申請件数211件(44都道府県、248自治体)。
- 3) 3月末日までの入力分は、各自治体と合意書締結の上、リオ五輪開催に合わせ東京都のウェブサイトでガイド(初版)が公開される。
- 4) 全国知事会「Sports Camp Japan」のウェブサイトを都道府県協会に案内。FIVB施設基準を必ずしもクリアしていない施設もあるが、最終的には4,000近くのスポーツ施設と付随する諸施設も紹介されることから、地域活性化と事前キャンプ地誘致を目的とした多くの情報は今後のJVA競技会開催に資する。

「Sports Camp Japan」ホームページのURL → <http://sportscamp.jp/>

④スポーツマネジャー

＜採用決定までの手順＞

- 1) JVAからTOCOGへ1名を推薦(2月23日)
- 2) TOCOGからFIVB宛に内諾の依頼(2月24日)
- 3) TOCOGはFIVBからの内諾を受理(3月17日)
- 4) 被推薦者とTOCOGの面接、並びに勤務条件等と確認作業
- 5) TOCOGからFIVB宛に正式提案
- 6) FIVBの承認
- 7) TOCOGからIOCへ報告
- 8) 正式採用

(12) 社会貢献事業

①バレーボール用具の収集事業 ※(2)バレーボールバンク事業にも同一活動の内容を記載

- 1) 本会主催大会会場でのブース展開(リーフレット配布、パネル、ポスター、バナーの掲出、プロモーションビデオの上映など)、及びバレーボールバンク公式ホームページでの活動報告、バレーボールバンク関連SNSツールを活用しました。
- 2) 広報活動を実施した本会主催大会(3大会にて実施)
 - ・第64回黒鷲旗全日本選抜大会
 - ・第35回全日本小学生大会
 - ・天皇杯・皇后杯全日本選手権大会

3) 収集事業

第35回全日本小学生大会時に参加全チームよりボールのご協力をいただきました。チーム及び個人の方から収集ボール数2,390個と本会にて大会や講習会で使用したボール5,600個、その他、ネット・ユニフォーム・シューズ等のご協力をいただきました。

4) 寄贈した国

国名	ボール	その他
ルワンダ共和国	500球	ネット・ボールバック
モンゴル国	1,030球	ネット・ボールバック
南スーダン共和国	1,060球	ネット・ボールバック・ユニフォーム・シューズ
シリア・アラブ共和国	1,100球	ネット・ボールバック・ユニフォーム・ボール籠
アジア諸国	150球	
ナイジェリア連邦共和国	350球	シューズ

ザンビア共和国 セントビンセント島	50 球	
バヌアツ共和国	50 球	
ガーナ共和国	50 球	ユニフォーム・シューズ
ネパール連邦民主共和国	50 球	
タイ王国 フィリピン共和国 ベトナム社会主義共和国	50 球	
カンボジア王国	100 球	
ミクロネシア	500 球	
東ティモール民主共和国	100 球	
東南アジア諸国	350 球	
ベネズエラ・ボリバル共和国	1,500 球	
SFTC	1,000 球	
合計 :	7,990 球	

5) その他

本年度1月末でバレーボールバンク事業の見直しをすると共に保管場所の整理をするため例年より多くのボールを海外へ贈りました。

②環境啓発活動

- 1) 地球温暖化防止の国民運動を受けて、本会が主催するすべての全国大会の会場のバナーおよび大会プログラムに活動内容を掲出し、地球温暖化防止の啓発活動に努めました。
- 2) 各種事業（競技会・講習会等）にてゴミの分別を行いました。
- 3) ペットボトルのキャップを国際大会等にて集め、関係団体へ寄贈しました。

(13) 広報活動事業

- ①バレーボール愛好者はもとより青少年や社会人、熟年世代にスポーツを「する」「観る」「支える」の楽しさや素晴らしさを伝える広報活動を WEB サイト及び SNS ツールを活用して充実させました。
- ②ファンの方を対象に 2014 年度より「バレとも」有料サイトを立ち上げ、全日本の活動の様子や写真のダウンロードサービスおよびチケットの優先販売を行いました。年度当初は 3,000 名程の有料会員数は年度末には 9,000 名超に増加しました。

(14) その他

- ①公益財団法人日本体育協会が推進する国民スポーツ振興事業に対して積極的に協力しました。

以上